

(4) 名古屋市港防災センターへの視察

防災についての学習をさらに深めるため、名古屋市港防災センターへの視察を行った。

(ア) 実施日時

8月21日(火) 午後

(イ) 参加者

一色中学校1年生 生徒90名(希望者)、教員4名(中核教員2名含)、危機管理課職員4名

(ウ) 活動内容

生徒たちは4つのグループに分かれ、それぞれ「地震」「煙避難」「伊勢湾台風3D映像」の防災体験と、近藤ひろ子防災教育アドバイザーによる「トーク&質疑」を行った。防災体験では、各グループにスタッフが同行し、それぞれの体験コーナーで詳しい説明をしていただいた。

地震体験では、揺れの恐ろしさを体験するだけでなく、揺れがおさまった後の行動(ガスの元栓を締める、扉を開けるなど)や、家具固定などの「備え」の重要性についても学習することができた。また、煙避難体験では、改めて「お・は・し・も」の大切さを確認することができた。さらに、「伊勢湾台風3D映像」では、南海トラフ地震を想定した映像も流してもらったことで、液状化現象の様子を知るとともに津波の恐ろしさを実感することができた。



地震体験で机に潜り込む生徒

近藤ひろ子氏の「トーク&質疑」では、7月に実施した講演会の内容を再確認した後に、生徒たちからの質疑を行った。「避難所が津波にのまれたらどこへ避難したらよいのか」「建物の下敷きになってしまった人を発見したらどうしたらよいのか」「避難所に入りきれなかったら車内でもよいのか」など、積極的に質問をする生徒たちの姿があった。



積極的に質問をする生徒

防災施設を視察し様々な体験を通して、防災に対する知識が深まるとともに、より切実感をもって防災について学んでいきたいという意欲を高めることができた。

【生徒の振り返り】

- 正直、今まで地震を甘く考えていました。今回の体験を通して、本当に怖いと思い、すぐに家族で話し合いをしました。備蓄食料や集合場所など、決めておかなければならないことが山ほど出てきました。そのことに気づけた今回の体験は、とてもよかったです。
- 今回の訪問を通して、防災に対する意識が以前よりもすごく高まりました。災害に備え、今すぐにも防災に取り組んでいかななくてはいけないと思いました。
- 津波の映像を3Dで体験し、津波が予想以上にはやくて怖かったです。津波が来た時、高齢者などはすぐに避難できないと思うので、地域で協力できるようにしなければいけないと思いました。

【中核教員の振り返り】

- 地震や伊勢湾台風などの体験活動では、生徒たちが自然災害の怖さを体感することができました。また、展示物が豊富であったこともあり、生徒一人ひとりが自分に興味があることを熱心に調べている姿が印象的でした。